

「朗らかに『お先にどうぞ』が 言えた朝」

～令和4年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を特に推進することにより、道路を利用する国民に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識していただき、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：91団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過されがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。57回目を迎える本年は、全国から2,909作品もの応募がありました。

応募作品について、推進標語審査懇談会の三好礼子氏（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ氏（川柳作家）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト）の3名の委員による選考を経て、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品を決定しました。

入選作品の標語は、令和4年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

◆令和4年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「また明日 どうろにひびく 友のこえ」

高岩 智志さん（福岡県 私立敬愛小学校）

（やすみ委員）元気な子どもたちの姿が浮かんでくる作品です。

“明日”という言葉からは明るい未来が想像でき、“ひびく”という言葉には音のイメージだけでなく心の伸びやかさも感じることができました。学校で過ごした一日の終わりや夕暮れまで友達と遊んだ別れ際に交わす「また明日」の言葉。身近な道路の一場面が標語として完成されていて、交通安全や日本の各地域の道路事情なども考えさせてくれる一面をしっかりと含んだ良い作品だと思います。

【中学生の部】「この道が たくさん運ぶ 物語」

眞島 李都さん（山梨県 甲府市立笛南中学校）

（吉岡委員）道路が物語を運ぶという想像は奥深いと思います。

友達や家族、また見知らぬ人々が歩いたり自転車乗ったり車で通過したりする中には、楽しいできごとあり、辛いことありで、人の数だけの物語が行き来しているはず。中学生なら決意や希望など、重大な心の物語も抱えて通学しているかもしれず、道路は自分と仲間の思いが交錯する場ですね。

【一般の部】「朗らかに『お先にどうぞ』が 言えた朝」

田中 康雄さん（埼玉県 白岡市）

（三好委員）いつものクルマ通勤途中や散歩中のひとコマかなと思いましたが、幼な子の通学から会社や買い物中までどんな年代や光景にもビタッとくる魔法の楽しい生活推進標語。どのセンチメンも「陽」で満ち、最後の「朝」もカギ括弧も効いていて、詠んでいるだけで幸せ気分になります。実は普段から声掛けや譲り合いをしている人でもタイミングって意外と難しく、出来ずにガクッとすること多いはず。うまく出来たらその日は笑顔の連鎖となりますが、声に出さずとも心で会話したり、マスクしていたら目で語るだけでもいいよね！と再認識。この爽やかな標語が日本中の道路に溢れる日が楽しみです。

《最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった「朗らかに『お先にどうぞ』が 言えた朝」を今年度の代表標語とします。》

優秀賞（6作品）

【小学生の部】

「ゆめつなげ きずなもつなげ みちつなげ」

上村 奏太さん（新潟県 新潟市立新津第三小学校）

「歩く道 守る命は ここにある」

田村 友花さん（新潟県 佐渡市立小木小学校）

【中学生の部】

「横断歩道 上げたその手は 命綱」

魚谷 珠海さん（兵庫県 神戸学院大学附属中学校）

「緑の下の力道」

北村 舞冬香さん（埼玉県 ときがわ町立都幾川中学校）

【一般の部】

「ボイ捨てで 自分の心 捨てないで」

肥後 幸男さん（鹿児島県 鹿児島市）

「変わる世に 変わらぬ道の 大切さ」

得能 義孝さん（広島県 三原市）

◆審査委員◆【総合選評】



三好 礼子 委員

全体に言葉が弾んでおり、元気がよかったですね。どれも詠み易くスッと入り込んできましたが、まったく新しい言葉の使い方の「あっぱれ標語」も多く、新しい風を感じました。今年は、募集と同時にコロナ禍だけでなく戦いや災害が続いたので、より人の心を優しくしてくれるような作品作りとなったのは、どんな年代の人にも夢や勇気を与え、切り開いていくキーワードがありそうです。

「出口」は、まさに道の先にある？ さりげない日常や人とのふれあい、感謝する気持ちや大切なものを守ることの大切さを思い起こさせてくれる標語たち、その全てをカレンダーにして毎日を送りたくくなりました。



やすみりえ 委員

皆さまからいただいた「道路」への想いあふれる標語の数々、今年度も厳正に審査をさせていただきました。最優秀賞に決定した各部門の標語は、今の私たちの暮らしや世の中の状況に沿っていると思います。特に、代表標語に決定した《朗らかに「お先にどうぞ」が言えた朝》は、道路での風景や人と人の表情が描かれ、現代の私たちにとても大切なことを伝えてくれているように感じました。

これからも多くの方々が標語づくりに参加して下さることで「道路ふれあい月間」の輪がさらに広がっていくことを願っています。



吉岡 耀子 委員

日々の思いを短い言葉に託した応募作品2,909点。内容、表現とも豊かで、言葉による大きなパッチワークのようでした。選出された9作品からは心の動きが感じられ、とくに代表標語「朗らかに「お先にどうぞ」が言えた朝」では街や道路に爽やかさが広がるようです。

なおスマホ、SDGs、LINEなどの言葉を織り込んだ作品も寄せられ、現在進行形の感性に惹かれました。

<お知らせ>